

## 平成30年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

自己と他者を大切にできる豊かな感性を持った生徒を育成し、確かな学力を身につけ、自己実現・社会貢献できる人材を育む学校

- 1 豊かな人間関係が形成できる力を持つ人権感覚に富んだ生徒を育てる
- 2 学ぶ楽しさを実感することで基礎学力を有した「社会を生き抜く力」を育てる
- 3 「働くことの意欲」を醸成し、自己の進路を主体的に選択できる力を育てる

## 2 中期的目標

- 1 安全で安心な学校生活を送れる学校づくり（豊かな人間関係が形成できる力を持つ人権感覚に富んだ生徒を育成）
  - (1) 生徒相互にとって安全で安心して生活できる場の醸成《人間関係の育成、施設等を含む学校環境整備・老朽化への対応》
    - ア 基本的なコミュニケーションの取り方を体験的な学習・行事等を通じ育成
    - イ 事故防止、大規模災害時初期対応及び緊急事態発生時の円滑な対応ならびに施設の老朽化対応《修理・改修・新規》
  - (2) 基本的な生活習慣の確立
    - ア 基本的な生活習慣の確立のため生徒・保護者・教職員との主体的な連携《働き方改革への取り組み》
    - イ 生涯にわたり生徒が自己の健康管理の大切さを習得できるよう理解・啓発
  - (3) 規範意識の醸成と個々の生徒のニーズに応じた支援体制
    - ア 「規範意識の醸成」に努めるため、授業規律の確立と遵守を徹底し、学びの習慣の大切さに気づかせる
    - イ 「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」の施行を踏まえ、支援教育や通級に関する理解を深め、すべての生徒への支援
    - ウ 教育相談体制および校内研修の充実《校内体制の組織づくり…分掌や委員会、将来構想への取り組み》
- 2 エンパワメントスクール【ES】初年度を見据えて、在校生との連帯感を醸成。すべての生徒に『基礎学力・考えるチカラ・生き抜くチカラ』を育む
  - (1) 「魅力ある授業」の創造と主体的・対話的な深い学びの実践と体験的な行事との融合より肯定感を向上
    - ア 「わかる授業」を大切にし、生徒が「できた。わかった。もっとできる」が感じられる授業の研究と実践
    - イ 「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」や体験的な行事などの活用
  - (2) 公開授業の活用
    - ア 公開授業週間を活用し、研究授業の充実を図る《教員相互の授業研究協議の充実》
    - イ 様々な授業手法について研鑽に努める。
  - (3) モジュール授業やエンパワメントタイム教材の充実と情報発信の展開 《リーフレット等・中学校訪問を含め活動の展開を新規に構築》
    - ア ES 8校の情報共有とモジュール授業等の効果検証を実施。個々の生徒に興味・関心ある教材の提供
    - イ 先駆的に取り組んでいる学校の見学を行い、教材研究に生かす
- 3 自己肯定感の育成とキャリア教育の充実《自己有用感を生徒に伝え、実感させる機会の充実》
  - (1) 生徒会活動や部活動、地域貢献の活性化
    - ア 体育祭や文化祭などを生徒の自主的活動になるよう生徒会・実行委員会を中心に運営する
    - イ ボランティアや地域との連携を図る活動の充実（はつがの祭りへのSL運行などボランティア）
    - ウ 体験的な行事、情操教育への啓発を生徒会活動、クラブ活動を中心に取組み活性化を図る
  - (2) 3年間を見通したキャリア教育の推進（「働くことの意義」を醸成し、自己の進路を主体的に決定する力を育てる）
    - ア 職業観・勤労観を養い将来の自分の生き方について展望を持つための働きかけを推進
    - イ 教科学習を基本に「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」体験的な行事など、あらゆる教育活動を生徒の自己発見に繋げる
    - ウ 思考力・判断力・表現力を育み『コミュニケーション力・キャリア意識』を促す情報編集力を育成
    - エ 進路希望調査を実施し、進路希望に応じた豊富で適切な情報を提供するとともに、適正検査等を利用し、自己の適性や能力を発見させるよう努める（進路決定率 平成29年度 80.1% → 平成30年度 85%）

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成31年1月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>学校全体の欠席数は微減、遅刻数は約2500減少（12月段階）。学校初の国際交流・体育祭・文化祭の活気から推測して、学校教育自己診断の結果には物足りなさを感じた。行事等に関しても学校運営協議会委員からも理解を頂いた。また、課題は生徒・保護者ともに自己診断の結果がH29とあまり変化がないことへの検証も必要。生徒の診断から「校則を守る」76.2%、「いじめはみられない」68.9%から規範意識の醸成は出来てきている。今後は対話のある規範意識をさらに進めていきたい。保護者の回答数が「H29 22.1%→H30 18.5%」とさらに減少し、学校への関心を高め提出率を向上させ、提出が多いことで、全体の意見となるので次年度は広報も継続したい。教員は学校の課題解決を図るため「学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」が約7割とほぼ同じ。エンパワメントスクールの完成に繋げる取組みに期待できる。生徒のニーズを上手くカタチにして実感させることが出来れば、学校全体の満足度や楽しさに反映されると考えている。</p>	<p>第1回：平成30年7月13日（金） ・欠席、遅刻を減らしていく日々の取組みが、進級者、卒業生を増やすことである。そのために学校行事、授業の充実が必要。進級の際の教務内規検討も必要。また、生徒自身への評価を丁寧なことで自己肯定感の育成に繋がる。さらに、生徒指導の校則等の見直しも必要に応じ弾力的な運用との助言あり。</p> <p>第2回：平成30年11月2日（金） ・遅刻指導は継続してもらいたい。進路指導の一次内定率は85%と昨年度より向上。今後は定着率も指標の一つとしてほしい。災害等の対応は良かったと感じた。生徒のために必要に応じ制度の見直し、また、部活動活性化の対策を模索してはどうかという意見あり。</p> <p>第3回：平成31年2月2日（土） ・エンパワメントスクールの1期生の全体のイメージは良い。さらに改善を加えて、年度途中でも生徒にあったルールの見直しを推進する方向を加速させてほしい。また、学校運営協議会の開催を平日にして、教職員全体の参加を促す。1期生が変わる取組みを継続して、生徒のいいところを各中学校へ広報することを是非とも実施してもらいたい。民間の特別非常勤講師の活用は今後も有効に計画してほしい。</p>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 安全で安心な学校生活を送れる学校づくり	<p>(1)安全で安心して生活できる場の醸成</p> <p>ア 基本的なコミュニケーション</p> <p>イ 事故防止、大規模災害時初期対応及び緊急事態発生時</p> <p>(2)基本的な生活習慣の確立</p> <p>ア 基本的な生活習慣の確立</p> <p>イ 自己の健康管理</p> <p>(3)規範意識醸成と個々の生徒への支援体制</p> <p>ア 授業に規律の確立と遵守を徹底</p> <p>イ 合理的配慮に関する理解</p> <p>ウ 教育相談の取組と校内研修</p>	<p>(1)学校が生徒相互にとって安全で安心な生活できる場と人間関係の育成・施設の改善</p> <p>ア・「総合的な学習の時間」、「産業社会と人間」など時間を活用し、コミュニケーションの取り方を体験的な学習・行事等を通じ育成</p> <p>イ・緊急事態発生時の連絡体制の確認と徹底</p> <p>・生徒の参加による安全衛生講習会の実施</p> <p>(2) 基本的な生活習慣の確立</p> <p>ア・基本的な「あいさつ運動」の定着</p> <p>イ・健康診断で要受診者（尿検査）の受診率を向上させる</p> <p>(3) 規範意識醸成と個々の生徒への支援体制</p> <p>ア・「授業定着」「規範意識の醸成」をめざして教職員・生徒・保護者の信頼関係を構築</p> <p>・保護者懇談、家庭訪問などにより保護者と連携を深め、寄り添い、粘り強く指導</p> <p>イ・合理的配慮に関する支援研修を実施「ともに学び、ともに育つ」教育の推進</p> <p>ウ・教育相談委員会とスクールカウンセラーの連携をさらに深め、研修を充実させる。また、教職員の負担軽減を図る</p>	<p>(1)安全で安心して生活できる場・老朽施設の改善</p> <p>ア・人間関係トレーニングなどを各学期に実施</p> <p>イ・救急連絡体制の確認3回</p> <p>・安全衛生講習会等の生徒参加1割アップ（H29年度 20人）</p> <p>(2)基本的な生活習慣の確立</p> <p>ア・校内でのあいさつ運動を毎日実施（H29年度 150日）</p> <p>イ・受診率の向上（3%増加）（H29年度 95.3%）</p> <p>(3) 規範意識醸成と個々の生徒への支援体制の強化</p> <p>ア・懲戒件数の5%減少（H29年度 148件）</p> <p>・のべ欠席日数の5%減少（H29年度 9002日）</p> <p>イ 支援教育に関する校内研修2回実施（新規）</p> <p>ウ・ケース会議を実施（H29年度4回） 校内研修年2回実施</p>	<p>(1)エンパワメントスクールへ2年教室の電子黒板、保育室の改修完成(◎)</p> <p>ア)特別非常勤講師を活用した「産業社会と人間」を実施(○)</p> <p>イ)自然災害等に応じ緊急連絡を3回以上活用。学校への参集時間別の体制新設(○)</p> <p>・講習会等の生徒参加者26人(◎)</p> <p>(H30年度3割アップ)</p> <p>(2)基本的な生活習慣の確立</p> <p>ア・あいさつ運動と学校行事等で実施（H30年度約150日、修学旅行等行事8回）(○)</p> <p>イ・受診率の向上（98%に増加）(○)</p> <p>(3) 規範意識醸成と個々の生徒への支援体制の強化</p> <p>ア・懲戒件数の41%減少(◎)</p> <p>(H30年度3月末88件)</p> <p>・のべ欠席日数の0.7%増加(△)</p> <p>(3月9063日の増加)</p> <p>イ 支援教育に関する校内研修1回、SC/SSW 校内研修3回(○)</p> <p>ウ・ケース会議を実施 9回(○)</p> <p>教職員の負担軽減として、家庭訪問、廊下等の立ち番制度見直し</p>
2 エンパワメントスクール【ES】改編・基礎学力育成	<p>(1)「魅力ある授業」の創造と主体的・対話的な深い学びの実践</p> <p>ア「できた。わかった。もっとできる」が感じられる授業研究、実践</p> <p>イ 少人数クラス</p> <p>(2)公開授業の活用</p> <p>ア 公開授業週間活用</p> <p>イ 様々な授業手法について研鑽</p> <p>(3)モジュール授業等</p> <p>ア 利用可能な教材</p> <p>イ 先駆的な学校見学</p>	<p>(1)「魅力ある授業」の創造と主体的・対話的な深い学びの実践</p> <p>ア・エンパワメントスクールへ対応した研究授業</p> <p>イ・1年（ES）と在校生の一体感を醸成</p> <p>各学年団と生徒との信頼関係の構築</p> <p>(2)公開授業の活用</p> <p>ア・教員相互が授業に関する意見交換を行う</p> <p>イ・授業見学の助言を通じ、ICTの活用を増加</p> <p>(3) モジュール授業等の教材の精査</p> <p>ア・先駆的な教材の本校での活用方法を検討し、新たな授業方法の実践方法を模索する</p> <p>イ・学校生活に課題を抱える生徒が多く、新たな学校の取組みを学ぶ</p>	<p>(1)「魅力ある授業」の創造と実践</p> <p>ア・研究授業2～4回実施</p> <p>イ・1年次の中退率の5%減少（H29年度 59人）</p> <p>・学校行事の充実。学校教育自己診断の学校満足度5%増（H29年度 53.7%）</p> <p>(2)公開授業の活用</p> <p>ア・生徒の授業満足度5%増（H29年度 51.9%）</p> <p>イ・視聴覚教材を活用した授業見学を実施</p> <p>(3) モジュール授業等の教材の精査</p> <p>ア・教材を活用した授業を行い、検討会の実施2回（新規）</p> <p>イ・研修参加者の増加</p>	<p>(1)「魅力ある授業」の創造と実践</p> <p>ア・研究授業4回実施(○)</p> <p>イ・1年次の中退率の63%減少(◎)</p> <p>(H30年度3月末 22人)</p> <p>・学校行事の充実。学校教育自己診断の学校満足度1.7%増(△)</p> <p>(H30年度 55.4%)</p> <p>(2)公開授業の活用</p> <p>ア・生徒の授業満足度1.4%増(△)</p> <p>(H30年度 53.3%)</p> <p>イ・視聴覚教材を活用した授業見学を実施</p> <p>電子黒板等を活用した授業見学(○)</p> <p>(3) モジュール授業等の教材の精査</p> <p>ア・教材を活用した授業を行い、検討会の実施3回(○)</p> <p>イ・研修参加者の増加</p> <p>支援教育の外部講師研修に約70名参加(○)</p>
3 自己肯定感の育成とキャリア教育の充実	<p>(1)生徒会活動・部活動</p> <p>地域貢献の活性化</p> <p>ア 生徒の自主的活動</p> <p>イ ボランティア活動の充実</p> <p>ウ 部活動への参加</p> <p>(2)3年間を見通したキャリア教育の推進</p> <p>ア 職業観・勤労観</p> <p>イ 生徒自身の自己発見の機会</p> <p>ウ コミュニケーション力・キャリア意識を促す情報編集力</p>	<p>(1)生徒会活動や部活動、地域貢献の活性化</p> <p>ア・体育祭・文化祭の生徒会役員の当日の運営や準備期間で、教員と協力しながら活躍の機会を増やす</p> <p>イ・エンパワメントスクール系列を活用した地域貢献</p> <p>ウ・生徒会と協力し、クラブ紹介や体験入部に取組む</p> <p>(2)3年間を見通したキャリア教育の推進</p> <p>ア・地元企業と協力し、インターンシップに取り組む</p> <p>イ・外部講師によるガイダンスや講演を活用し自己の進路に対する啓発を行う</p> <p>・資格取得への参加を促し、進路に向けた動機付けを行う</p> <p>ウ・コミュニケーション力・キャリア意識を促す情報編集力の育成</p> <p>エ・場面に応じた適切な言葉を選択できるよう寄り添い、粘り強く指導を行う。</p>	<p>(1)生徒会活動や部活動、地域貢献の活性化</p> <p>ア・学校教育自己診断の関連項目の5%増と全体の回収率の向上</p> <p>イ・ミニSLの運行等の地域交流</p> <p>・地域小中学校等の連携</p> <p>ウ・クラブ加入率を5%上昇（H29年度 14% 68人）</p> <p>(2)3年間を見通したキャリア教育の推進</p> <p>ア・インターンシップ参加者5人（H29年度 0人）</p> <p>イ・学校斡旋による就職希望者5%増（H29年度 74人）</p> <p>・資格取得者10%増（H29年度 23人）</p> <p>ウ・コミュニケーション力の養成</p> <p>エ・3年生の就職面接練習参加1割増（H29年度 80人）</p> <p>(進路決定率 H29年度 80.1%)</p>	<p>(1)生徒会活動や部活動、地域貢献活性化</p> <p>ア・学校教育自己診断の全体の回収率の向上（生徒78.8%で5%、教職員93.2%で27%向上）(○)</p> <p>イ・ミニSLでの地域交流に生徒も参加し、小中学生の乗車数約500名と盛況。(◎)</p> <p>・地域小学校等のプログラミング出前授業(○)</p> <p>ウ・クラブ加入率は57%上昇(◎)</p> <p>(H130年度19% 107人)</p> <p>(2)3年間を見通したキャリア教育の推進</p> <p>ア・インターンシップ参加者</p> <p>(H30年度0人) (△)</p> <p>イ・学校斡旋による就職希望者2.7%増（H30年度76人）(△)</p> <p>・資格取得者約2倍(◎)</p> <p>(H30年度43人)</p> <p>ウ・コミュニケーション力の養成(○)</p> <p>エ・3年生の就職面接練習参加3割増（H30年度104人）(◎)</p> <p>(進路決定率 H30年度3月末79.0%)</p>